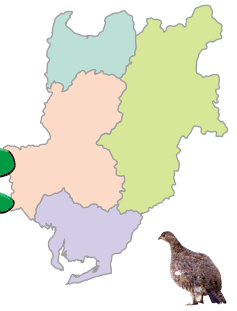




国民の森林・国有林

広報

# 中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



愛知県豊川市内の小学生に森林の働きについての説明を行っている様子

## 森林の役割や重要性を 森林環境教育で伝える

(P2に関連記事)

主な項目	○ 管内各地域において「教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会」を開催 … P2
	○ 各地からのたより …………… P3
	○ 風景紀行 …………… P8

## 管内各地域において

### 「教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会」を開催

#### 「指導普及課」

#### 「木曽森林環境保全ふれあいセンター」

八月三日に北信地域及び上伊那地域、八月四日に木曽地域、八月五日に東信・松本地域と、長野県内五つの地域の小中学校等の教職員の方々を対象とした森林・林業体験学習研修会を、長野県との共催により、各地域の国有林を主なフィールドとした四会場において開催しました。

この研修会は、森林環境教育の手法等についての学習を通じ、森林・林業の役割や森林環境教育の重要性についての認識を高めるとともに、森林環境教育が学校教育の中に積極的に取り入れられるよう促すことを目的としたもので、各会場ともフィールドの特色を生かし、思考を凝らしたプログラムによる学習を行いました。

北信及び東信・松本地域では、黒姫高原（北信署管内 黒姫山国有林ほか）や美ヶ原高原（中信署管内 美ヶ原国有林ほか）において、高原地帯に生育する貴重な動植物の観察や、学校の校庭や近隣の里山でもできる自然を使った遊びやゲームの実践、のこぎりを使った間伐作業や三角定規や各種測定機材等を使って

の測樹体験、伐採跡地の見学等を行いました。

特に自然を使った遊びやゲームの実践では、学校やクラスにおいて、身近な場所を活用し、児童・生徒の皆さんが楽しみながら自然と向き合い、学ぶことができ、先生方も気軽に実践していただけるメニューを体験し、参加者の皆さんは、時折童心に返ったような表情を浮かべながらゲームに取り組み、学校での実践に向け、意欲的に手法を吸収していました。

上伊那地域では木曽署管内の奈良井国有林及び周辺地域において、「木曾山用水の歴史や経緯、地域住民と国有林との関わり」について学習し、講師である上戸



ネイチャーゲームの実践（黒姫高原）



間伐作業の体験（美ヶ原国有林）

中条水利組合の組合長から、当時、肥沃な土地がありながら、水不足に悩む西筑輪地区の農民の手により、延長十二キロにも及ぶ水路を開削した経緯や通水の苦労話等、実際の水路を見学しながら詳しく説明を受け、先生方からは、昔のお百姓さんの米作りに対する強い思いが感じられ、学校教育にも取り入れるよう検討したいとの声が聞かれました。

また、二酸化炭素吸収源対策で進められている間伐実施箇所現地説明や、「森の巨人たち百選」に指定されているジャンボカラマツの見学を行いました。

木曽地域では、油木沢ヒノキ植物群落保護林をはじめ、黒沢御岳国有林に生息する貴重な動植物の観察を行い、油木美林内では、人為が加わって成林し、樹齢

三百年以上とされるヒノキの純林を目の前にした先生方が、圧倒された表情を浮かべながら、森林を守り育ててきた先人達に感謝する言葉が聞かれました。

現在、多くの小中学校が、総合学習等の授業を活用し、また、環境クラブ等の活動により、地球温暖化や自然破壊等の環境問題や、森林や自然の働きや大切さ、林業についての学習を積極的に行っています。昔に比べて自然に親しむ機会が少ない。「学校の近くに緑が少ない（無い）」等の課題もある中、参加された教職員の皆さんは、しっかりとした目的意識をもって研修に臨んでいました。

#### 「名古屋事務所」 森林環境教育研修会

名古屋事務所は八月十日、尾張旭市の小・中学校の教職員を対象とした森林環境教育研修会を、瀬戸国有林の森林交流館で開催しました。

この研修会は、学校教育に携わる教職員自身が、森林を利用した教育プログラムを体験することで、森林の役割や重要性について再認識し学校教育に役立たせていくことを目的に実施したもので、尾張旭市教育委員会が募集した、市内の小・中学校から十四名の先生の参加がありました。

研修会では、始めに国有林の概要説明と中部森林管理局や名古屋事務所の取り組みなどについてのプレゼンテーション



イラストを使った森林教室の手法を研修

のあと、名古屋事務所が行っている森林体験教育メニューの中から、模型やイラストを使った「丸太切り」、鉛筆立てや壁飾りなどの「木工クラフト」、植物の種の話や種飛ばしなど、どれも興味深く体験していただけでした。

午後からは、青山裕子愛知県ネイチャーゲーム協会理事長を招き、ネイチャーゲームが自分も自然の一部であることへの『気づき』を促すことを目的にしていることを、実際のゲームを通して楽しみながら学びました。

一日の研修会を終えて、参加した先生方からは、「森林の大切さを子供達にも伝えていきたい」「実際に体験して楽しさがわかった。生徒達にも体験させた」となどの感想が寄せられました。



木の葉のカルタ取りを実体験

### 社会貢献の森 「風とせせらぎの森林」協定調印

【富山署】 八月四日、富山市ファミリーパーク自然体験センターホールにおいて、きんたろう倶楽部（会長…西藤徳三 富山大学学長）と富山森林管理署が「社会貢献の森」による森林整備協定の調印式を行いました。

今回の調印の対象となった富山市稲代にある大沢野国有林周辺は、強風が吹き、家屋や田畑が近隣にあることから、東西に約千五百メートル、幅平均二十メートルの二・八六畝全体が防風保安林に指定されています。近年、スギ造林地にモウソウチクが侵入してきたので、富山で里山再生に取り組んでいるNPO法人のきんたろう倶楽部と協働で、平成十九年からタケの伐採を実施し、また、伐採したタケ



タケの除去作業（大沢野国有林）



調印式の様子

をチップ化しての歩道新設も併せて実施してきました。

きんたろう倶楽部は、当国有林の整備を最後まで行いたいとの意向を示したことから協定を締結することにしました。協定により当地は「風とせせらぎの森林（もり）」と命名され、タケの除去の外に、空閑地への植樹・保育や整備協定の看板の設置等を行うこととしています。



間伐等の作業方法を説明

### 各地からのたより

#### 大学生が森づくり

#### ボランティアに参加

【南信署】 七月十日、長野県富士見町の西岳国有林において、大学生協が主催する「長野の森づくりボランティア」が開催され、東京農業大学、早稲田大学などの東京近郊の学生と、信州大学の学生六十六名が参加しました。

当日は、南信森林管理署、長野県森林インストラクター協会、信州大学技術職員などの指導のもと、ヤツガタケトウヒの間伐、玉切り、搬出の作業を実施しました。作業内容等の説明を聞いている時

の学生たちの横顔は大人ですが、木に触れたり香りを感じている時は子どものような笑顔を見せていました。

当ボランティアが国有林内で行われたのは、昨年に続いて二回目ですが、実施に当たって、信州大学農学部 of 学生サークル「伊那守」のメンバーらが森林官と下見するなど、スタッフとして運営に主体的に関わり、他学部、他大学からの参加者をサポートしている点が特徴です。そのため単なる体験にとどまらず、学部・学校などの壁を越えて交流しつつ森林・林業への理解を深める場になっています。

実施後のアンケートでは、「林業に関する理解が深まり、考えるきっかけになった」「早稲田大・社会科学部四年）、



玉切り作業を行う大学生



搬出作業お疲れ様でした

「日本人がそんなに木を使っているなんて知らなかった」(東農大・地域環境科学部一年)、「とてもよい体験でした」(信大・人文学部一年)等の意見が寄せられ、当署としても学生たちと意見交換を行う機会となるなど有意義な実施となりました。

当ボランティアは来年以降も継続される予定であり、学生たちが森林づくりの大切さを学ぶ機会として、当署としても協力していきたいと考えています。

### 「レクリエーションの森」で オフィシャルサポーターが 遊歩道整備

【木曾署】七月二十七日、長野林業土木協会木曾支部会員三十一名が、「レクリエーションの森」となっている木曾御岳自然休養林内の田の原天然公園で遊歩道整備ボランティアを行いました。



木道の整備を行う土木協会の皆さん

田の原天然公園の遊歩道は湿原植物の踏み荒らしを避けるため、延長三キロメートルの木道を、「レクリエーションの森」オフィシャルサポーター協定を締結した「アサヒビル株式会社」と「田の原天然公園の環境を守る会」が整備を進めています。

今年も七月三日に、アサヒビルグループ社員による歩道整備ボランティア活動を実施しましたが、悪天候のため、予定していた整備が完了せず、提供を受けた遊歩道資材を仮置きしたまま、次回

の活動が未定の状態となりました。そこで、土木協会木曾支部が社会貢献活動の一環として、未了となった遊歩道を登山や夏休みの観光客が訪れる前に完了させたいと整備を申し出たことから、今回のボランティア活動の実施となりました。

当日は、晴天に恵まれたものの、標高二千以上の高地は下界の猛暑とは別世界のさわやかな涼風に作業もはかどり、予定していた木道約六十メートルが完成し、更に東屋の老朽化していたベンチ修理までも終了することができました。

地元の王滝村からは、散策者の通行が確保され、安全な観光シーズンを迎えることができる感謝され、地域に貢献する良い機会となりました。

### 下流域住民と森林整備の協働作業

#### 「伝統工芸の森」で汗

【南木曾支署】八月三日、「南木曾伝統工芸の森」(南蘭国有林六百九林班)において、「南木曾伝統工芸の森育成協議会」の構成員である南木曾くろくろ工芸協同組合、蘭松笠生産協同組合の他、名古屋シティ・フォレスト1隊員十四名の計三十一名が森林整備作業(下刈等)に汗を流しました。

「南木曾伝統工芸の森」は、南木曾町の工芸品であるくろくろ細工や松笠、サワラ桶の関係者からなる南木曾伝統工芸の森育成協議会と当支署の間において、森